



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/3 (月)	+ 900	▲ 64,600	▲ 63,700	法人税、消費税、保険揚げ (前倒し) 国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (2年)	社債等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 27,800 成長基盤 ▲ 1,600	国債買入 + 10,900	米: ISM製造業景況指数 (5月) 欧: ユーロ圏製造業PMI (5月)
6/4 (火)	トン	▲ 50,000	▲ 50,000	法人税、消費税、保険揚げ 普通交付税			
6/5 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)			日: 毎月勤労統計 (4月) 米: ADP雇用統計 (5月)
6/6 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000				日: 中村日銀審議委員の講演 (札幌市金融経済懇談会) 米: 新規失業保険申請件数 (6月1日終了週) 欧: ECB、政策金利発表
6/7 (金)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)			米: 雇用統計 欧: ユーロ圏GDP (1Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆2,400億円減少の552兆4,600億円から始まった。その後、国債発行等の要因により増減し、31日は551兆5,300億円 (速報) で越月した。

無担保コールON物加重平均金利は引き続きビッドサイドの調達意欲が底堅く、0.077%~0.078%で推移した。

ターム物は1W~3M物を中心に0.12%~0.20%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、6月5日に毎月勤労統計 (4月) の公表、6日に中村日銀審議委員の講演 (札幌市金融経済懇談会) などがある。海外では6日にECB政策金利の公表、7日に米雇用統計 (5月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.07 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.20 ~ 0.30

<レポ>

TNGCは週央まで+0.04%~+0.06%のレンジで推移した。取引が月末過ぎとなる30日は+0.03%~+0.04%で出合い始め、引け近くには一時マイナス圏での出合いが見られた。週末は前場+0.05%~+0.06%で多く出合いが見られたが、後場には+0.08%近辺まで上昇した。

SC取引は2年438~460回債、5年149~167回債、10年350~374回債、20年180~187回債、30年65~82回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆8,700億円で、週間償還額の約1兆6,600億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆6,918億円から5月30日時点で24兆1,171億円に増加した。発行市場は鉄鋼業、化学、食料品、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.1%台前半から0.20%近辺での出合いであった。

来週の償還額は、約6,600億円となっている。発行市場は、月初で新規発行が少なく、期落ち額と同額程度の発行が見込まれる。発行レートは、引続き0.1%台前半からの出合いと予想する。

CP等買入オペは28日に、予定通り3,000億円でオフアされた。結果は按分レート0.161% (同0.154%)、平均落札レート0.177% (同0.176%) と按分レート、平均落札レート共に前回比で上昇した。

<TDB>

5月31日の3M (1234回債) の入札は、最高落札利回り0.0381% (前回債0.0421%)、平均落札利回り0.0316% (前回債0.0401%) となった。

来週の入札は、6月6日に6M、7日に3Mが予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.20